
面ライダー × 仮面ライダー ヤイバ&オーズfeatケン movie大戦space

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×仮面ライダー ヤイバ&オーズfeat
ケン movie大戦space

【Nコード】

N4324Q

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

仮面ライダーオーズ

仮面ライダーヤイバ

2人のライダーが宇宙へ飛び立ち、悪に立ち向かう。

はじめに

仮面ライダー×仮面ライダー ヤイバ&オーズfeatケン movie大戦space

各sideのあらすじ

仮面ライダーオーズ 黒き欲望

ある日アंकは妙なヤミーの気配を感じ取り映司と共にヤミーのもとへ、そのヤミーを倒すとアंकも知らない黒いコアメダルが・・・

仮面ライダーヤイバ ケン birthday

プロットの戦いから数週間、龍一は自分しか知らない怪人が目の前に現れ戦うが敗れてしまう、蒼牙達に明かさなかった仮面ライダーケン誕生の謎を話す事に・・・

movie大戦space

一連の謎の出来事の元凶はどうか宇宙にあるという・・・それを知った蒼牙と映司、2人は突然出会いそして共に仮面ライダーとして宇宙へ飛び立つ。

仮面ライダーオーズ 黒き欲望 前編（前書き）

ちよつと題名を変えました。

仮面ライダーオーズ 黒き欲望 前編

仮面ライダーオーズ 黒き欲望

「欲望・・・欲望・・・もっと欲望を・・・」

・・・

レストラン クスクシエ

知世子「映司君、比奈ちゃん、おはよう。」

比奈「おはようございます。」

映司「おはようございます!」

白石知世子

レストランクスクシエの店長

泉比奈

クスクシエのバイトをしている女

火野映司

世界中ちよっとのお金と明日のパンツで旅をする男、クスクシエでバイト中、そして仮面ライダーオーズ

アंक「おい・・・朝からつるさいぞ。」

アंक

比奈の兄・泉信吾の体に取り付く欲望から生まれた怪人グリード

知世子「あらあアंकちゃん、ごめんねえ私気がつかなかったわあ。

」

知世子はアंकがグリードである事を知らない、しかしアंकが悪い大人に育てられたという映司と比奈のウソをまともに信じていた。

アंक（こいつ・・・虫ずがはしる！！）

アंकはコアメダルが足りず完全なグリードの姿に戻る事が出来ない、唯一戻る事ができる右手を握りしめている。

比奈「アंक相変わらず我慢してる！！」（小声）

映司「いやあ、やっぱり良いな。」（小声）

何が良いかわからないが2人は感心していた。

.....

クスクシエの外では黒いメダルが転がりいきなりヤミーの姿になった。

アंक「！？、映司！！ヤミーだ！！」

知世子「ヤミー？」

比奈「ちっ、違います！！ああ、鍋が焦げてますよ！！」

知世子「あら！？大変！！」

知世子は慌ててキッチンに戻る。

映司「ナイス比奈ちゃん！！」

比奈「気をつけてください！！」

アंक「さっさとしろ！！」

映司とアंकは外に出る。

ヤミー「欲しい・・・もっとよこせ！！」

アंक「？、カザリでもウヴァのヤミーでも無いな、まああの形ならかなりの儲けだな、しっかり稼げよ！！」

アंकはタカ、トラ、バッタのメダルを映司に渡す。

映司「本当にいつもメダルの事ばかりだな！！」

映司はベルトのスロットにメダルを入れスキャナーで読み込ませる。

映司「変身！！」

「タカ！！トラ！！バッタ！！タ・ト・バ！！タトバ！！タ・ト・バ！！」

映司は仮面ライダーオーズに変身する。

オーズ「いつもと雰囲気が違うヤミーだな。」

オーズはトラクローをたててヤミーを斬りつける。

ヤミー「ぬうう！もつと欲しい！！欲望が！！」

オーズ「え！？」

アंक「欲望が欲しいだと？」

ヤミーの言葉に戸惑いオーズは反撃を受ける。

オーズ「うわあー！！」

アंक「まったく、何やってんだ映司！！オラ！！」

アंकは続いてカマキリのメダルを渡す。

オーズ「サンキュ！アंक！！」

オーズはトラメダルをカマキリメダルに変えスキャナーで読み込ませる。

「タカ！！カマキリ！！バツタ！！」

オーズはカマキリソードで連続斬りを与える。

オーズ「ふっ！はっ！！」

ヤミー「くうう！？欲しい！！欲望が欲しい！！」

アंक「映司！！さっさと片付ける！！」

オーズ「わかったよ！！」

オーズは再びスキャナーでメダルを読み込ませる。

「スキャニング・チャージ！！」

カマキリソードにエネルギーがたまりオーズは高くジャンプする、そして降下しながら斬り降ろした。

オーズ「せいやああああああ！！」

ヤミー「ぐああああ！！」

ヤミーは爆散したがいつものようにセルメダルが散らばる事はなく、一枚の黒いメダルが転がっていた。

オーズ「？、コアメダル？」

アंक「妙だなあ、セルメダルがでてくるはずが・・・」

オーズ「セルメダルじゃなくてこれが出てきたよ。」

映司はアंकに黒いコアメダル？を渡す。

アंक「なんだあ？見た事ねえな。」

どうやらアंकも知らないメダルのようだ。

.....

鴻上フアウンデーション

鴻上「どうやら珍しいコアメダルが現れたみたいだよ里中君。」

鴻上

鴻上フアウンデーションの社長、人の欲望に対して大変絶賛している。

里中

鴻上の秘書、いつも鴻上の手作りケーキを食べさせられている、実は辛いもの好き。

里中「実はオーズがそのメダルを一枚手にいれたみたいです。」

鴻上「素晴らしい!!」

鴻上は手作り生クリームを飛び散らかす。

鴻上「里中君、君は確か映司君の働いている店を知っていたね?」

里中「はい、知ってます。」

鴻上「ならばこれを渡してきてくれ、ついでに昼食でもとりなさい。」

里中「はい、わかりました。」

.....

映司「アंक、このコアメダル何だと思う？」

アंक「さあな、まあ強いて言うならそれはお前が扱えるようなもんじゃない。」

するとクスクシエに里中がやってきた。

比奈「いらっしやいませ。」

里中「今日は韓国ね・・・キムチとビビンバ、あと火野映司さんいます？」

知世子「映司君？」

.....

映司「あつ、里中さん。」

里中「映司さん、鴻上社長からです。」

里中はコンパクトを開いた、それには黒いコアメダルが入っていた。

映司「これって!?!？」

里中「鴻上社長からなんで私には何かはわかりません。」

.....

アंक「鴻上が？」

映司「うん、なんか二枚揃っちゃったね。」

比奈「アंकにも知らないメダルですか。」

アंक「面白い、試しに揃えてみるか。」

.....

その頃、街に黒いメダルが転がっていた。

「欲しい……欲望が……もつと!!！」

市民「彼女欲しいよおお!!！」

市民「お金持ちになりたい!!！」

少年「おもちゃ買ってよおお!!!!！」

市民の欲望がオーラとなりメダルにあつまる、そしてヤミーへと姿を変えた。

next...

仮面ライダーオーズ 黒き欲望 後編

クスクシエ

アंक「映司！！またヤミーだ急げ！！」

映司「また！？」

.....

ヤミー「欲望・・・もっと・・・欲しい・・・」

映司「いた！！」

アंक「かなり満たされてるな、無茶はすんなよ！！」

アंकはクワガタ、カマキリ、バッタのメダルを渡す。

映司「変身！！」

「ガータガタガタキリ！！バッタガキリバ！！！！」

映司はガタキリバコンボで一気に決めようとする。

オーズ「はっ！！だぁ！！！！」

ヤミー「欲望！！よこせ！！！！」

ヤミーはオーズにつかみかかる。

オーズ「うわっ!?!」

アंक「何やってんだ!?!」

ヤミーはオーズを放り投げる。

オーズ「うあ!?!くそ・・・あいつ力が半端ない!?!」

アंक「コンボは止めだ!?!オラ!?!」

オーズ「ありがとう!?!」

「クワガタ!?!ゴリラ!?!バッタ!?!」

オーズはカマキリメダルをゴリラメダルに変え力押しで攻撃をする。

オーズ「はっ!?!おりゃ!?!」

ヤミー「ぐう!?!欲望!?!よこせ!?!」

アंक「お前!?!欲望をよこせてどついう事だ!?!」

アंकはヤミーに問いかけた。

ヤミー「欲望!?!俺たちの力!?!宇宙の力!?!」

オーズ「え!?!宇宙!?!」

アंक「まさか・・・あいつ!?!」

オーズはスキヤナーでメダルを読み込ませる。

「スキヤニングチャージ!!」

オーズ「だあああああああ!!」

ヤミー「ヴアアアアアア!?!」

ヤミーは爆散した、そして黒いメダルが落ちてきた。

オーズ「揃っちゃった・・・黒いメダル。」

アंक「ああ、おそらく奴はスペースグリードだ。」

オーズは変身を解いた。

映司「スペースグリード?」

アंक「俺達が生まれるはるか前に誕生したいわば俺達の先祖だ、そいつらは宇宙で生まれ全滅したって聞いたが・・・」

映司「もしかしてこのコアメダルはスペースグリードの?」

アंक「ああ、だったら欲望を欲しがるのもうなずける・・・宇宙にはグリードの力である欲望がないからな。」

映司「スペースグリードが地球に来る事は?」

アंक「さあな、だがもしあのヤミーの吸収した欲望が直接繋がっ

てたら・・・」

????「大復活だ。」

「!？」

2人は後ろを向くと見た事のないグリードがいた、それこそスペースグリードだ。

アंक「てめえがスペースグリードか・・・映司!!」

映司「あ、うん!!」

しかし

アंक「あん?・・・メダルがねえ!？」

映司「なっ、何で!？」

スペースグリード「これの事か？」

スペースグリードはアंकの所持するメダルケースを持っていた。

アंक「いつの間に!？」

スペースグリード「この欲望の塊のコアメダル・・・これさえあれば・・・」

アंक「返せ!!」

スペースグリッド「返すと思うかあ？なら俺を倒してみな。」

映司「アंक、メダル。」

アंक「馬鹿か！？全部とられたろ！！」

映司「あの黒いメダル！！」

映司はなんとアंकすら知らないメダルを使うと言い出した。

アंक「ふざけるな！！死にたいのか！？」

映司「お前にとってこのままメダル全部とられるよりましでしょ！！」

スペースグリッド「何をゴチャゴチャ言っている！！」

スペースグリッドは手から爆発を起こす。

アंक「ぬあ！？」

映司「アंक！！」

アंक「くそ！！どうなっても知らないぞ！！！！」

アंकは映司に黒いメダルを渡す。

映司「変身！！」

「キュウケツキ！！コウモリ！！アクマ！！」

映司「うっ!?!」

「キュツ!?!」

映司「ぐっ!?!」

「コー!?!」

映司「うおおおおおおお!?!」

「マア!?!キュコーマアアアアアアアアアア!?!」

オーズは赤い複眼、鋭い牙、裏表黒と赤のマント、腕にはトラクロ
ーより鋭い爪、足は真つ黒ど形しかわからない、コレが闇の仮面ラ
イダーオーズ・キュコーマコンボだ。

アंक「欲望に飲まれたオーズかあ。」

キュコーマコンボは欲望に支配されたオーズである、オーズはスペ
ースグリッドに向かって噛みつき欲望のエネルギーを吸い出す。

スペースグリッド「ぬお!?!やめろ!?!俺の欲望だああああ!?!」

アंक「欲望を吸収するのか。」

オーズ「うおおおおお!?!」

オーズはスペースグリッドと距離をとる。

スペースグリード「か・・・返せ！！俺の欲望だあ！！」

スペースグリードは攻撃を繰り返すがなんなくしのがれ反撃をくらう。

スペースグリード「ぐあ！？」

「スキヤニングチャージ！！」

オーズはコウモリのように腕の羽を広げ飛び立つと風景は夜になり赤い閃光を帯びた無数のコウモリがスペースグリードの体を貫く、そして最後にオーズ自身も赤い閃光を帯びスペースグリードを貫く。

スペースグリード「ぎゃあああああああ！？」

スペースグリードは爆散した、それと同時に黒いコアメダルは砕け散りオーズの変身が解けた。

映司「うううう・・・」

映司は膝をつく。

アंक「あのコアメダルはスペースグリードと繋がっていたのか、しかしあのコンボに耐えられるとは・・・」

映司「アंक・・・これ。」

映司は手に奪われたメダルケースがあった。

アंक「でかした、映司。」

すると映司は口を開く。

映司「アंक、スペースグリードが現れたのは……もしかして宇宙に何かあるんじゃない。」

アंक「まさか……行く気か？」

映司「真相を確かめないとね、だから……メダル借りてくね。」

映司の手にはタカ、トラ、バツタ、カマキリ、チータ、クジャク、コンドルのメダルがあった。

アंक「！？お前いつの間に!？」

映司「じゃあね。」

映司はセルメダルを使いライドペンダーで走り出した。

アंक「おい!!!映司!!!待て!!!」

movie大戦:

仮面ライダーオーズ 黒き欲望 後編（後書き）

次回は仮面ライダーヤイバ

仮面ライダーヤイバ ケン birthday 前編(前書き)

仮面ライダーヤイバ side

仮面ライダーヤイバ ケン birthday 前編

プロト壊滅から数週間が過ぎた、人々はみな平和な時をすごしていた。

アイリ「蒼牙！！起きてよ！！」

蒼牙「・・・ん？ああ、アイリおはよ。」

アイリ「おはよ、じゃないわよ！！遅刻するわよ！！」

蒼牙「え？何に？」

アイリ「忘れちゃったの!？」

・・・

数日前

蒼牙「警察人気投票？」

榊原「毎年行われる行事でその署でだれが一番信頼されているか決めるんだ。」

龍一「くだらねえ。」

榊原「お前も警察だろ。」

龍一「興味ない。」

榊原「とりあえず投票頼むわ、明日の8時な。」

蒼牙「わかりました。」

.....

アイリ「今8時5分よ。」

蒼牙「ああ!？」

そんなわけで警察署までバイクをとばす蒼牙とアイリ、そして警察署に着いた。

アイリ「え?」

蒼牙「これは.....」

そう警察署は謎の怪人に襲撃されていたのだ、そこで龍一が戦っていた。

榊原「無理するな龍一!!」

ケン「大丈夫・・・はあ!!」

ケンは怪人に殴りかかったが受け止められてしまった。

怪人「相変わらずだな。」

ケン「お前なんで!？」

怪人はケンに反撃をし吹き飛ばした。

ケン「うわああああ!?!」

ケンは変身が解けてしまった。

怪人「ははは、また会おう。」

怪人はそう言うと消えていった。

.....

「.....ち.....りゅ.....ち、龍.....ち、龍一!!」

龍一「はっ!?!」

龍一は戦いの後気を失ってしまった。

榊原「大丈夫か?」

龍一「ああ、何とか.....」

アイリ「あの怪人、プロトの生き残り?」

龍一「いや、違う。」

蒼牙「お前知ってるのか?」

龍一は黙り込むと少しした後口を開いた。

龍一「過去に戦った事がある。」

アイリ「過去に？」

龍一「ああ、俺がケンになって初めて戦った強敵だ。」

蒼牙「話してくれるか？お前の過去。」

龍一は静かにうなづいた。

.....

(今から4年前の事だ、俺は新米警察として夜道をパトロールして
た。)

龍一「.....異常なしか。」

龍一は自転車を走らせていた、すると謎の男が立っていた。

龍一「?、こんな夜中に何をしている。」

????「いや、特に。」

龍一「正直に答えろ、何を.....」

するといきなり頭に衝撃がはしった。

龍一「うっ!?!?」

龍一「そのまま気を失った、気づいた時には見知らぬ場所にいた。」

龍一「何だここ・・・鎖!?繋がれてるのか!?!」

????「目を覚ましたか。」

龍一「お前さっきの!?!」

????「私は鳴滝、そしてここはスーパーネガシヨツカー本部だ。」

龍一「スーパー・・・ネガシヨツカー?」

鳴滝「悪いが私の夢のために力になってもらおう、やれ。」

龍一「何する気だ!?!やめろ!!放せ!!!」

・・・

数時間後、龍一は改造人間になり牢屋に閉じ込められた。

龍一「くそ・・・何しやがった・・・体が・・・」

????「お前は改造されたんだ。」

龍一「!?!、誰だ!?!」

牢屋の外にはスーパーネガシヨツカーの戦闘員がいた。

戦闘員「どうだ?改造された気分は?」

龍一「嫌みか?」

戦闘員「まさか・・・お前・・・勇気あるか？」

龍一「勇気？」

戦闘員「お前に勇気があるなら・・・お前を助けてやるぞ。」

龍一「良いのか？そんな事したらお前・・・」

戦闘員は辺りを見渡し続けた。

戦闘員「鳴滝のくだらない夢につくつもりはないからな、どうすんだ？」

龍一「俺はいつでも覚悟はしてるぜ。」

戦闘員「決まりだな。」

戦闘員は牢屋の鍵を開け戦闘スーツを脱ぎ捨て通常の服になった。

戦闘員「俺は三寫大介、お前は？」

龍一「炎舞龍一だ。」

こうして2人のスーパーネガショッカー脱出劇が始まった。

n
e
x
t
:

仮面ライダーヤイバ ケン birthday 後編

龍一「三寫大介と共にスーパーネガシヨッカーからの脱出を試みた。」

龍一「ひとつ聞いていいか？」

大介「なんだ？」

龍一「なぜ鳴滝の野望に興味ないのに組織に入った？」

大介は少しせつない顔して答えた。

大介「何でかな？自分でもわかんねえや。」

龍一「あ・・・そう。」

龍一は少し呆れ顔になった。

大介「ん？」

龍一「どうした？」

大介は何かに気がついた。

大介「まずいな、裏切りがバレたみたいだ。」

龍一「まじかよ。」

大介「逃げるぞ・・・ってもう回り込まれてるし。」

既に戦闘員が2人の前に立ちふさがっていた。

戦闘員「裏切り者め!!」

戦闘員「始末してくれる!!」

龍一「どうすんだよ三鳶。」

大介「はあ、仕方ないか。」

大介は体に入力入ると腰から炎が発せられベルトがまかさった。

龍一「!?!」

大介「さあて、行くぞお!!」

大介は腕に付けているリングをベルトにつける。

大介「変身!!」

大介はリングを回転させると体が炎に包まれ姿を変えた。

龍一「なっ、なんだあ!?!」

大介「仮面ライダーケンだ!!行くぞ!!」

大介は仮面ライダーケンと名乗り戦闘員を次々と倒していき全滅させた。

ケン「ふう。」

龍一「三寫、それは一体・・・」

ケンは変身を解いた。

大介「驚いたか？スーパーネガシヨッカーを脱出するために開発しておいたんだ。」

龍一「すげえな。」

大介「まあ、俺も改造されたから変身出来ただけだな。」

龍一は驚愕した。

龍一「お前も!?!」

大介「ああ、ここにいる鳴滝以外は全員改造されてる。」

龍一「鳴滝・・・なんて奴だ。」

大介「確かにな、とりあえず先を急ごう。」

龍一「ああ。」

2人は先を急ぎ出口を見つけ出した、しかしそこに怪人がそびえ立っていた。

怪人「通さん。」

大介「ギルか。」

龍一「ギル？スーパーネガシヨツカーの怪人か？」

大介「ああ、下がってる、変身。」

大介は再びケンに変身した。

ギル「裏切り者は始末する。」

ケン「うおおお!!!」

ケンはギルに連続攻撃を叩き込むがびくともせず反撃された。

ケン「ぐあ!？」

ギル「貴様の力はそんな物か？」

ケン「ぐっ、まだまだ!!!」

龍一「三寫!!!」

2人の戦いは強烈だったが明らかにケンはおされていた。

龍一「三寫!!!おい怪人野郎!!!もつやめる!!!」

ギル「雑魚が、目障りだ!!!」

ケン「龍一!？」

龍一「!?!」

ギルは龍一に太い針を飛ばしてきたがケンがそれをかばった。

龍一「三鳶!?!」

ケン「がはっ!?!」

ケンは倒れ込み変身が解けた。

龍一「三鳶!?!しっかりしろ!?!三鳶!?!」

大介「たく・・・無茶して・・・」

龍一「しゃべるな!?!今ここから・・・」

大介「ばーか、出来るかよ・・・そんな事・・・」

龍一「でも!?!」

大介はバツクルとリングを龍一に渡す。

大介「龍一・・・死ぬ・・・なよ・・・」

大介の手はついに地面についた。

龍一「三鳶!?!三鳶あああ!?!」

ギル「ふん、茶番は終わったか?」

龍一「・・・てめえ。」

ギル「強い奴が弱い奴を倒して何が悪い。」

龍一は渡されたバツクルとリングを握りしめる。

龍一「許さねえ・・・てめえだけは絶対に許さねえ!!」

龍一はバツクルを装着しリングを取り付け、回した。

龍一「うおおおおおおお!!」

・・・

龍一「こうして俺は仮面ライダーケンになった、三鳶の後を継いでな。」

榊原「そんな事が・・・」

アイリ「その後ギルは？」

龍一「倒せなかったけど・・・お互い追いつめあって何とかギルはにげた。」

蒼牙「まさかさっきの怪人が・・・」

龍一「そう、ギルだ。」

蒼牙「ギル・・・一体どこに行ったんだ・・・」

榊原「そんな事もあるのかと奴に小型発信機を付けておいた、署内の衛星リーダーで探ろう。」

アイリ「本当に準備良いのね。」

.....

榊原「居場所は・・・宇宙だ。」

龍一「宇宙だって!？」

アイリ「どうやって追うのよ。」

すると蒼牙は

蒼牙「龍一・・・俺に行かせてくれ。」

龍一「蒼牙?」

蒼牙「龍一の体じゃ多分宇宙空間に耐えられない、だから・・・」

アイリ「蒼牙・・・」

龍一はため息をついた。

龍一「仕方ないな・・・そのかわり、しっかり倒して来いよ。」

蒼牙「ありがとう。」

榊原「でもどうやって行くんだ?」

蒼牙「それを今から探します。」

アイリ「蒼牙!!」

アイリは蒼牙を心配そうに見つめる。

アイリ「無茶しないでね。」

蒼牙「うん、龍一を頼んだよ。」

蒼牙はバイクに乗り走った。

movie大戦…

仮面ライダーヤイバ ケン birthday 後編(後書き)

次回、movie大戦space

movie大戦space 前編(前書き)

movie大戦space

movie大戦space 前編

映司「宇宙に行くための方法、必ずあるはず・・・」

・・・

蒼牙「その方法をまずは手に入れなきゃ・・・」

・・・

映司「でもどこに？」

・・・

蒼牙「わからないけど・・・だけど」

・・・

映司「これ以上!?!」

・・・

蒼牙「誰かを!?!」

・・・

蒼牙、映司「傷つけさせないために!?!」

movie大戦space

二台のバイクが交差した。

蒼牙「あれ？」

映司「今のつて？」

2人はバイクを止めヘルメットを外し互いに顔を見合う。

映司「君は確か・・・ヤイバ!？」

蒼牙「たしかあなたは・・・オーズ!？」

ついに2人の仮面ライダーが対面した。

映司「何でここに？」

蒼牙「それはこっちの台詞だよ。」

2人は互いに理由を話した。

映司「君も宇宙に!？」

蒼牙「ああ、ギルを倒すためにな。」

映司「で、互いに行き方を探してると。」

蒼牙「そんな感じだな。」

すると2人の前に一台のリムジンが止まり里中が出てきた。

映司「里中さん!?!」

里中「映司さんに蒼牙さん、社長からメッセージです。」

里中は小型薄型テレビを2人に見せる、それに鴻上が映った。

鴻上「やあ、映司君!!それに仮面ライダーヤイバの蒼牙君だね、君の事は調べておいたよ。」

蒼牙「まじかよ。」

鴻上「君達は宇宙に行きたがっている、里中君!!」

里中はオレンジ色のカンドロイドを映司に渡す。

映司「これは?」

鴻上「それをライドペンダーに使えばどこにだって飛べる!!そして蒼牙君!!君にはたしかヤイバをモチーフにしたサーフィンがあったね?」

蒼牙「ああ、そういえば。」

鴻上「それをバイクに合体させれば飛行型のバイクになる、ぜひ試してくれ。」

テレビの画面は真っ黒になった。

里中「それでは。」

里中はリムジンに入り走り去った。

蒼牙「妙な奴だな、鴻上って奴。」

映司「そう？とりあえず、試そう。」

映司はカンドロイドを変形させるとライドペンダーと合体し飛行型ライドペンダーへと変形し、蒼牙はヤイバのサーフィンを呼び出しバイクと合体させた。

映司「よし。」

蒼牙「行くか。」

映司はベルトにメダルを入れスキャナーで読み込ませ、蒼牙はベルトを装着しヤイバスティックを横に倒す。

蒼牙、映司「変身！！」

「タカ・トラ・バッタ！！タ・ト・バ！！タトバ！！タ・ト・バ！！」

「change YAIIBA！！」

2人は仮面ライダーに変身しバイクに乗り、宇宙に向かって飛び立った。

.....

2人はついに宇宙に来た。

オーズ「おお、これが宇宙か・・・」

ヤイバ「どこもかしこも星だらけだな。」

オーズは目を凝らすと自分が一度使った黒いコアメダルが何枚も浮いていた。

オーズ「なっ、何であるメダルが？三枚だけじゃなかったのか？」

そして何枚ものメダルの中に怪人ギルがいた。

ヤイバ「ギル！あそこにいた！！！」

ヤイバが突入しようとするオーズが止める。

オーズ「待つて・・・様子が変だ！！！」

ギル「やめ・・・ヨクボウ・・・ろ・・・モット・・・俺に・・・
ヨクボウ・・・つくなああああああ！！？」

そのコアメダルはギルの体にとりつきギルはたちまち姿を変えた。

オーズ「メダルが怪人に!？」

ヤイバ「なんだあの姿・・・」

その姿はキューコマコンボに類似していたが明らかに発しているオ
ーラが違った。

ギル？「ついに・・・完全体に・・・なる時が・・・きた！！」

オーズ「何だお前は！？」

「我はギユガランギイ・・・」

ヤイバ「ギユガランギイ？」

ギユガランギイ「後はオーズのコアメダル、ヤイバの雷を手に入れば我は完成する。」

ヤイバ「誰がやるか！！」

オーズ「行くぞ！！！」

2人はギユガランギイに接近し戦いを挑む。

n e x t
...

movie大戦space 後編

オーズ「うおおおおおおお!!」

「スキヤニングチャージ!!」

ヤイバ「はああああああ!!」

「Y A I B A c h a r g e !!」

2人のライダーは同時に必殺技を繰り出した、しかしいとも簡単に防がれ吹き飛ばされた。

ヤイバ「がつ!?!まずい!?!」

オーズ「うわ!?!」

2人は何とか体制を立て直し反撃にでる。

「c h a n g e d a s h !!」

「タカ!トラ!チーター!!」

2人はバイクを土台に飛び上がって高速攻撃を繰り出す。

オーズ「だだだだだだ!!」

ヤイバ「おりやりやりやりやり!!」

ギユガランギイ「攻撃のつもりか!？」

ギユガランギイはヤイバの首をつかみオーズを波動で吹き飛ばした。

オーズ「わあ!？」

ヤイバ「くっ・・・あっ!？」

ギユガランギイ「死ぬ、宇宙のもくずとなれ!！」

「change SUN!！」

するとヤイバはサンモードになり振りほどき炎の剣でギユガランギイを斬りつける。

ギユガランギイ「ほう、やるな。」

「タカ!カマキリ!!!チーター!!!」

オーズ「せいやあ!！」

オーズはタカキリーターコンボのカマキリソードでギユガランギイを斬りつける。

ギユガランギイ「こしゃくな!！」

ギユガランギイは同時に2人を吹き飛ばした。

ヤイバ「ぬあ!？」

オーズ「うあ！？」

ギュガラングイ「邪魔をするなあ！！」

すると

ヤイバ「うるさい！！親友の仲間の命を奪ったお前の邪魔をしないわけにはいかないんだよ！！」

オーズ「お前の欲望で世界中の人達を傷つけさせる事は絶対させない！！」

ギュガラングイ「だまれ！！きれい事を言うな！！人はみな、欲望にのまれた愚かな存在、そして下らない事で簡単に命を無駄にする究極のゴミだ！！そんな人類を何故守ろうとする！？いい加減諦めろ。」

ヤイバ・オーズ「諦めるか！！」

ギュガラングイ「！？」

ヤイバ「俺を信じ、愛してくれた者の事を、忘れない限り！！」

オーズ「大切な人を、これ以上失わないために！！」

ギュガラングイ「ふざける！！貴様らに未来はない！！」

オーズ「未来はどうにだってなるさ、ちょっとのお金と明日のパンツさえあればね。」

ヤイバ「ははっ、確かにな、覚悟しろ・・・今日がお前の命日だ！
」

ヤイバはライトニングステイクをバツクルに取り付け、オーズはクジャク、コンドルのメダルをはめ込みスキャナーで読み込ませた。

「change lightning!」

「タカ!!!クジャク!!!コンドル!!!タアアジャアアドルウウウ!!!」

ヤイバはライトニングフォーム、オーズはタジャドルコンボになった。

ギユガラングイ「はあ!」

ギユガラングイは黒い光弾をはなつがオーズはタジャスピナーで防ぎ、ヤイバはライトニングセイバーで斬り捨てる。

ギユガラングイ「何!?ぐあ!?!」

2人はギユガラングイを斬りつけた。

ヤイバ「行くぞ!!!」

オーズ「うん!!!」

「lightning charge!」

「タカ!!!クジャク!!!コンドル!!!カマキリ!!!バツタ!!!トラ

！！チーター！！ギガスキャン！！」

ヤイバ「はああああ！！！」

オーズ「せいやああああ！！！」

2人は同時にキックを繰り出す。

ギュガラングイ「ぐあ！！！」

ヤイバ・オーズ「だああああああああああああ！！！」

ギュガラングイ「ぎやああああああ！！？」

宇宙に凄まじい爆発が広がった。

.....

地球・・・

蒼牙「あああ、疲れたあ。」

映司「何だか体が重いね。」

すると

アイリ・榊原・龍一「蒼牙！！！」

アंक「映司！！！」

比奈「映司君!!」

蒼牙「まあ、お互いに帰る場所はあるみたいだね。」

映司「うん、君と戦えて良かった。」

.....

アंक「おい映司、あいつ誰だったんだ？」

映司「新しい友達かな？」

比奈「へえ、良かったですね。」

アंक「良くねえよ!!勝手にメダル持っていきやがって。」

映司「ごめんごめん。」

.....

榊原「あの青年良い雰囲気だったな。」

蒼牙「はい、とても優しい人でしたよ。」

アイリ「確か彼.....」

龍一「まあ、良いじゃん。」

蒼牙「また会えると良いな。」

... ۲۱۰۰

movie大戦space 後編(後書き)

さてさて次作はどうでしょうか？

緊急アンケート！！

皆さんはどちらが良いですか？

- ・プリキュアオールスターズ〜雷の仮面と嵐を呼ぶ幼稚園児！！〜
- ・プリキュアオールスターズ×仮面ライダーディケイド×ウルトラ8兄弟 second final episode

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4324q/>

仮面ライダー×仮面ライダー ヤイバ&オーズfeatケン movie大戦space

2011年2月2日14時10分発行